

I 日 時 令和6年11月1日（金） 10時00分～11時30分

II 場 所 市役所幹部会議室

III 出席者 出席者名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

市長

この大学連絡会議は、皆様方と直接お話する機会として設けさせていただき、ご意見を頂戴できる極めて貴重な機会と考えております。本日は外国人との共生と、昨年度、一昨年度の議題の進捗状況につきまして、意見交換をさせていただきたいと思っております。

千葉市の人口は現在98万人を超えておりまして、そのうち在留外国人は3万8000人程度になっております。これは、全体の3.9パーセントに相当しており、10年前と比べると約1.7倍という状況であります。

国においても、人口減少社会における労働人口を確保するために、在留管理制度を改正し、外国人材の受け入れへ政策を転換しております。今後も千葉市内で生活する在留資格を持った在留外国人は増加していくことが見込まれます。

市内にお住まいの外国人の年代ですが、働き手でありまして20代から30代の割合が高くなっており、外国人市民と日本人市民が共に円滑に地域の中で生活をして活躍することができる、いわゆる多文化共生社会というものを実現していくことが重要かと思っております。そうした状況を踏まえまして、今年の議題につきましては「多文化共生の推進について」とさせていただきました。

（事前に）配布しておりますチラシに掲載しておりますが、生活の中で最も大きな課題はごみの分別でございます。ごみの分別は日本独特のものというようご指摘もいただいておりますが、そうしたルールの周知啓発や、支援を必要とされる外国人市民に、ボランティアをマッチングして言葉の壁を下げっていくコミュニティ通訳・翻訳サポーター制度などの取り組みを実施しております。

本日の会議では、千葉市が考えている施策の方向性や考え方などにつきましてご説明しますので、皆様から貴重なご意見を頂戴いただきたいと思いますと思っております、それぞれの大学、短期大学におかれまして、現在取り組んでいること、今後取り組もうとしていることなどにつきまして、幅広く意見交換させていただければと思っております。外国人との共生により円滑な市民生活が送れるまちづくりを推進していくきっかけになればと存じます。

3 出席者紹介

4 議題（1）令和4年度の大学連絡会議の振り返りについて

都市アイデンティティ推進課長 （資料「令和4年度の大学連絡会議「千葉開府900年に向けて」の振り返りについて」に基づき説明）

・意見交換

帝京平成大学

本学の医療スポーツ学科の馬場教授が会長を務めております日本ソフトパラフェンシング協会が「千葉開府祭り2024」へ体験ブースを出展しました。

ソフトパラフェンシングは、帝京平成大学を中心に植草学園大学・敬愛大学・千葉大学の学生・教職員が東京2020大会のレガシーとして考案しました、車いすフェンシングをモチーフにした誰でも手軽に楽しめる千葉発祥の新しいパラスポーツです。

ソフトパラフェンシングはペットボトルの再利用等により、道具を自作することができまして、安価で手軽に楽しめることで、子どもから高齢者まで、障がいのある方とも一緒に楽しめます。また、経済弱者や社会弱者を救い、全ての人々が健康になるためのSDGsにも貢献した活動であることを多くの方にご紹介する機会になりました。

当日は、100名を超える方々にソフトパラフェンシングを楽しんでいただき、その後、お子様方にはバルーンソード（風船の剣）を作成して、お土産として持ち帰っていただきました。

敬愛大学・敬愛短期大学

本学を経営する学校法人千葉敬愛学園は、2026年に創立100周年を迎えます。今後様々な取組で学園の大きな節目を祝う予定ですが、この年が千葉開府900年と重なることから、歴史シリーズ講演会を企画して、1回目に「千葉氏研究最前線～ここまでわかった千葉氏の実像～」を開催いたしました。

この講演会は、平安時代から戦国時代にかけての千葉氏の歴史や発展の軌跡を紐解く内容で、当日は400名以上の市民の皆様にご来場いただきました。

当日は、BSNHKの「英雄たちの選択」に出演されておりました京都女子大学の野口実名誉教授による基調講演、千葉県教育委員会の石橋一展先生、酒々井町教育委員会の広瀬千絵先生による講演が行われました。

本学では今後も、この歴史シリーズ講演会を継続する計画ですので、引き続き千葉開府900年に華を添えることができるよう努めてまいります。

市長

千葉開府900年事業に関しましては、これまでも、各大学と意見交換を実施しており、その内容を踏まえて今年3月に推進計画を策定したところであります。現在、令和8年の本期間に向けて、準備を進めております。

本日、説明させていただいた通り、すでに皆様と連携した取り組みも実施されておりました、心から感謝を申し上げます。千葉開府900年に向けて、大学、短期大学、学生、職員など多様な方々に関わっていただきたいと思っておりますし、千葉の街の成り立ちを振り返りながら、今後の千葉の街のあり方を共有して、具体的な行動に移せる機会にしていければと思っております。また、取り組みが広がりを感じており、さらに大きくしていければと考えております。

千葉開府900年記念の機運醸成や記念事業に取り組む市民、団体、企業等を「千葉開府900年記念メンバー」として登録し、それらの取組みに対して協議会がプロモーション等の支援を行うメンバーシップ制度を令和6年12月から始めていきたいと思っております、ぜひご協力をお願いします。この制度では学生とのコラボレーションを希望する企業もいますので、市としてしっかりとコーディネートさせていただきたいと思っております。

#### 4 議題（2）令和5年度の大学連絡会議の振り返りについて

脱炭素推進課長 （資料「令和5年度の大学連絡会議「市域の脱炭素化への取組み促進について」の振り返りについて」に基づき説明）

・意見交換

敬愛大学・敬愛短期大学

本学では、教育学部の1・2年生が毎年合同ゼミで課題解決型のグループ学習を行っています。今年度は「地球温暖化に対してできる対策」をテーマに取り組みました。この合同ゼミでは、千葉市脱炭素推進課のみなさまには何度もご来校いただき、ご助言をいただきました。5月には千葉市のゼロカーボンシティ政策について講義をしていただき、6月にはグループでの取組に関する中間発表でご講評をいただきました。また7月には体育館で各グループがポスターセッションを行い、審査にご参加いただきました。学生たちは、森林保全活動や小学生にもできるSDGsゲームの活用、規格外野菜の魅力や可能性など様々な視点で学習成果を発表しただけでなく、学内にマイボトルへの給水器の整備を提案するなど、活発な発表がなされました。

神田外語大学

本学では、現代社会とイノベーションというSDGsに関連する科目とその授業を実施しました。学生たちには事前に各国のCO2排出量の推移をデータで調査し、グループ毎にイノベーションや戦争、経済成長の度合いといった出来事との関連についてディスカッションと発表を行いました。千葉市やウェザーニューズ社の方々もディスカッションに参加していただき、非常に有益な会ができたと思っております。

昼休みには「天気から学ぶ！気候変動の現状」をテーマにしたパネルディスカッションを実施し、一般市民の方々にも参加していただきました。異常気象やCO2削減の行動について、企業、行政、大学の立場から発表し、学生も交えて意見交換を行いました。こういった運動を色々な機会を捉えて色々な場所で活発化させて、市民の運動として盛り上げていけたらと考えております。

市長

千葉市といたしましても、各大学におかれまして、地球温暖化対策をテーマにして、市が進める脱炭素社会の実現に向けた取組みを説明する機会をいただいたことに感謝を申し上げます。

先ほど説明がありましたが、敬愛大学・敬愛短期大学からは、学生ならではのユニークな発想が多数発表されたと同っております。今後、具体化に向けた検討が続いている案件もあると同っておりますので、その進捗を楽しみにさせていただきたいと思っておりますし、市としても協力させていただきたいと思っております。

また、神田外語大学の取組みも教えていただき、ありがとうございます。市はウェザーニューズと気候変動への対策の推進に関する協定を締結しており、観光・教育関連では様々なご協力をいただいております。気候変動は地球規模の課題ではありますが、地域によって影響もそれぞれでございますので、神田外語大学でこのテーマでディスカッションをさせていただいたことや、たくさんの多様な人材がいらっしゃる神田外語大学のキャンパスで議論できたことは、市にとりましても新しい視点をいただき、大変良い機会だったと感じておりまして、感謝申し上げます。

今後も、脱炭素・地球温暖化対策事業などで取り上げていただき、グループワークへの市職員の参加や、学生のアイデアを政策に結びつけていく取組みも進めていきたいと考えておりますので、ぜひ、学生の皆さんに参加の後押しをいただけるとありがたいと思います。

#### 4 議題（3）多文化共生の推進について

（1）市長発表（資料「多文化共生の推進について」に基づき説明）

（2）意見交換

植草学園大学・植草  
学園短期大学

まず日本語教育支援に関しては、小学生教員の就職が決まった学生が実際に日本語指導の補助に入った経験があります。非常に有効であったということですが、そこで意見として出ているのは、交通費のような補助があるといいということです。

留学生の地域活動への参加に関してですが、留学生は本学に現在はおりません。留学生がいれば、様々な活動に参加できるかと思っています。

外国人家庭の子どもたちを支える取り組みの推進では、短期大学で「外国につながる子どもの理解と保育」「外国につながる子どもの支援」「外国につながる子と保護者に対するICTを活用した言語支援」という授業を、大学で「外国人である子どもの理解と教育支援」を必修科目の中で実施しております。また、本学と千葉大学と一緒に幼児教育コンソーシアムを作っておりますが、そこでは本学教員が外国にルーツを持つ子供の教育の支援の講習を担当しています。このように植草学園では、外国につながる子どもに関しての教育を重視しております。また、千葉市内の保育園などでは外国籍の保護者との連絡に翻訳アプリが活用できるのではないかと考えます。先程、各園での翻訳機などの購入のサポートがあるということ伺いましたが、もっと進める必要があると思います。また千葉市では外国人の集住地域で外国にルーツがある幼児に対するプレスクールを実施しているようですが、このような試みはさらに進めていただければと思います。

留学生の就労・定着支援による外国人人材の獲得では、本学では日本国内だけ有効な免許・資格職の養成に特化していますので、母国に持って帰るといよりは、それを持って国内、特に千葉市内で活躍してくれる、2つの文化の繋がりになるような学生に留学してもらえようようにしていきたいと思っております。

最後にですが、本学は今年から外国にルーツを持つ生徒の特別選抜試験を行います。本日から学生募集を始めます。今朝の日本経済新聞に紹介していただきました。外国にルーツを持つ生徒の進学機会や専門職への就職機会を拡大したいということで、日本以外の国にルーツのある学生に対して積極的に目を開きたいと考えております。

神田外語大学

先週、学園祭を行いました。その時のトピックスを紹介させていただきます。

外国にルーツを持つ生徒のための進学指導会を開催しました。参加者は高校生10人程度と保護者が10人程度でした。現在、多文化フリースクール千葉に通っていて、来年大学進学を考えている生徒たちもいて、こうした人達との話ができたということは、実施して非常に良かったと感じました。植草学園大学の中澤様からお話がありましたように、私どもも、外国にルーツを持つ生徒に対して進学の門扉を開きたいと思い、入試に特別枠を設けております。ところが、非常に難しいのは、日本語能力のレベルが担保されておらず、日本語能力が不十分な生徒に再度日本語学習を実施すると、それが大変手間がかかり、コストもかかるということです。学内に賛否両論がありますが、これをやっていかなければならないと考えております。

また、先ほど市長からお話がありました、学生のボランティアに期待しているということですが、私は、千葉市の中で様々な学生がこういったボランティアに参

画するという事は、学生の自己肯定感を高めることに繋がり、人格形成につながりますので、大いに進めるべきだろうと思っております。ボランティアについては、交通費やお弁当ぐらい出してもらいたいという話がよく出ます。給料を払う必要はありませんが、学生たちはお金がないので、有償ボランティアの制度設計が大事かと思っております。

外国人労働者の受け入れについては、安価な労働力を確保するというような前提がそもそも間違いでありまして、教育の機会を提供せずに日本語教育を十分にしないで受け入れをすることには反対です。先程の市長の話にありましたように、中途半端な受け入れ体制では、結果として福祉コストが上がり、また、犯罪率が高くなる要素にもなりかねません。結局はコスト高になるということです。私たちとしては、然るべくコストを認識して、積極的に外国人の方たちを受け入れ、住みやすい環境を作る責務があると考え次第でございます。

敬愛大学・敬愛短期  
大学

本学には経済・国際・教育の3つの学部を設置していますが、学部横断型の副専攻のひとつに、「日本語教員養成課程」を設けています。現在、この副専攻の履修者の中から3名の学生が、外国人が在籍する中学校に、授業の合間を利用して学習支援のボランティアとして活動を行っています。過去には地域の日本語学級でボランティア活動に取り組んだ学生もいることから、稲毛区での日本語学習支援の取り組みを、今後拡大させたいと考えています。また本学の留学生は、これまで「外国人留学生交流員」の委嘱をいただいております。小学校での国際理解講座など千葉市国際交流協会の事業に定期的に参加しております。さらに、区民対話会で話題となったことがきっかけで、本学留学生の意見を反映させた「外国人のためのゴミ出しに関するマナー動画」を制作していただき、多少なりともお役に立っていただければありがたいと思います。

次に、「留学生の就職・定着支援」についてです。本学には現在、8ヶ国から70名の外国人留学生が在籍しています。彼らの卒業後の進路指導は、キャリアセンターが中心となって、インターンシップや企業とのマッチング活動を行っており、千葉県内・市内への就職も勧めています。コロナ禍を経て、現在、留学者数は多くはありませんので、今のうちに、市と協力しながら、市内企業で留学生を積極的に採用していただけるように、企業とのコミュニケーションを深めたいと考えています。外国人留学生は衣食住の大半をアルバイト収入によって賄っています。このことを理解し、様々な取り組みを進めるためには、学業とアルバイトに支障がないように留意しながら、活動の場を提供することが大事であると考えます。また学生が市や地域の取り組みに参加させていただく場合は、人手不足の補充を理由とするのではなく、「学部や専攻での学びに活かすことができるので、参加をする」という姿勢、またこうした姿勢を引き出すような働きかけが大事になると考えます。

淑徳大学

本学は、他者と共に生きるという共生の理念で、建学の精神として教育を続けております。そういったところで、留学生同士、それから日本人と留学生、それから地域住民の皆様と協力し合える、出会える機会の場の充実を図っていきいたいということを考え教育活動をしております。現在は、日本語や日本文化を学ぶ学習支援プログラムを本学で行ったり、地域の七夕祭りに留学生が出店する機会を大学としてバックアップしたりして、留学生同士が協力し合える場、それから地域住民の交流を深める場を積極的に支援しています。

本年度から本学で留学生のチューター制度を始めたところです。在校生が留学してきた留学生を1対1でサポートできる制度で進めております。

そうした中で、留学生がどうしても体調を崩す場面が出てきて、医療機関への受診のサポートが必要となるのですが、専門用語ということになりますので、非常に語学の壁を感じました。本日、生活ガイドをお配りいただき、手に取らせて見せていただきました。先ほど市長から話がありましたけれども、コミュニティ通訳が利用できるということ、本学はあまり熟知しておりませんでした。この度、この制度を理解できましたので、活用させていただきたいと思っております。

やはり、地元の千葉市の取り組みを十分に私たちも理解をして、利用させていただき、留学生にも還元させていただくことの重要性を改めて認識いたしました。大変勉強になりました。ありがとうございます。

千葉大学

本学では現在、留学生が1800人、外国からの教員や研究者が850人いますが、フルに活動して頂きながら多文化共生の推進に係る取組みを行っています。

まず、インターカルチュラル・スタディーセンターを設け、外国籍児童を受け入れる学校や教師への支援や、本学が外国人留学生を派遣する活動を行っています。また、人材育成プログラムの実践、千葉県における教育実践支援、本学の海外ネットワークの活用により、政策、教育の両面から地域社会における異文化間の教育を支援しております。その一例として、外国人の教員あるいは留学生が出かけていき、様々な年代に対して日本の文化や語学等、教育を行う異文化交流授業があります。

次に千葉大学バンチプログラムです。色々な学部の垣根を越えてという意味ですが、様々なプログラムを実践している中で日本語学習プログラムを行っています。この日本語学習プログラムは、第2外国語あるいは外国語として日本語を学習している人に対して、コミュニケーションを通じて日本語学習を支援する役割を担うことができる力を養うプログラムです。

それから、本学には留学生がたくさんおりますので、ユニバーサルフェスティバルという催しを年1~2回行っています。本学で学ぶ留学生と日本人学生、あるいは地域住民が作り上げる文化紹介のプログラムで、これまでに60を超える国や地域の留学生が発表しており、その内容は、食事など日常的な文化の紹介から、伝統的なダンス、楽器のパフォーマンスで、毎回大変盛り上がります。印象深かったこととして、外国人留学生が今日本で1番興味を持っているのはアニメのようでした。留学生向けの就職支援活動としては、他にも留学生向け就職ガイダンス・セミナーを実施したり、あるいは就職情報ホームページを整備したりと様々行っております。

その他の取り組みとして、千葉市、山武市、四街道市などに学生を派遣して日本語教育支援活動を実施する。あるいは、UR住宅に居住する留学生のうち1名をチューターとして配置し、夏祭りや防災訓練の情報をチューターから他の居住留学生に情報展開する。それから、「チーバくんグローバルパートナーズ」として選任された留学生が県に意見をご提案し、SNSで県の魅力なイベントを発信する。そして、本学の留学生による附属小学校、中学校の児童生徒宅へホームビジットなども行い、草の根からのグローバル化に取り組んでいるところでございます。

千葉経済大学・千葉  
経済大学短期大学部

本学では基本的に留学生を受け入れていないため、こういう側面ではないところで地域貢献に活躍する学生を育てようと思っております。

ちょっと違うことを話しますが、昨日、千葉経済大学附属高校の修学旅行の安全祈願のため、成田山新勝寺に、三時の護摩炊きに向けて行ってきました。午後2時半ぐらいから4時ぐらいまで滞在しましたが、その時に見かけた参拝者の半分以上は外国人の方々でした。浴衣を着て、写真を撮ったりしている方も外国の若い方々であり、国語の時間に日本語を学校で身につけさせることはやっていかなければならないと思いますが、私とすれば、遊びやスポーツ、食事などの活動を通して、いつの間にか日本語になじませていくことは、これは小さい段階ですが、大事だろうと思います。したがって、それぞれの地域にある公園や先ほど親子三代夏祭りの話がありましたが、そういう場に外国の方や、子供達、親子連れが来て、同じ時間を過ごす中で、垣根が取り払われていくということが、遅いようですけど、やっぱりこれは基本に置くべきではないかと思います。

本学園にはボランティアセンターがあります。アクアラインマラソンや青葉の森公園でのスポーツイベントのボランティア等色々なことも行っていますが、もし、小学校が行う祭りや催し物、町内会が行うイベント等があれば、ボランティア精神のある学生たち、生徒たちが一緒になって、そういう場に行くということが糸口になるだろうと思います。

千葉県立保健医療大学

私どもの大学には、留学生が在籍していない状況ですので、残念ながら「多文化共生の推進」に向けた取り組みは活発化していませんが、学生の国際的な視野を育成する、養成するという観点から、いくつか取り組みを実施しておりますので、ご紹介させていただきます。

まず1つ目は、千葉大学にご協力いただきまして、千葉大学の留学生と本学の学生との交流会を今年8月に開催しました。留学生6名、本学の学生11名が参加した交流会でしたが、学生の満足度も高く、非常にありがたく思っております。

2つ目は、海外で活躍する医療従事者で、今回はアメリカの病院に就職している看護師の講演と本学学生との対談を実施いたしました。

また、最後となりますが、神田外語大学にご協力いただき、今年4回目になる外国語による応急処置体験講習会を開催しました。こちらも学生の満足度が非常に高いところがございますので、今後も頑張っってやっていきたいと思っております。

今回、このような機会をいただきまして、皆様の大学の取り組みを勉強させていただきました。今後とも皆様の大学のご協力をいただきながら、国際化等に向けて、取り組みさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

東京情報大学

本学では、総合情報学部で留学生が入学していますが、状況としては100名程度、全学生の5パーセントぐらいです。中国をはじめトルコ、バングラデシュ、インドネシア、マレーシアと10カ国ぐらいの学生が来ています。学生の留学目的は、卒業後にIT系の企業に就職するということですので、入学前に日本語能力試験のN2レベルはあることが前提で面接等を行い、入学を許可しています。十分なIT系の会話ができるという学生もいますので、入学した後に日本語教育のクラスを3段階に分けて、日本語教育を行い、その上で、IT専門家としての教育を行っています。

学生による日本語教育の支援活動や留学生の地域への参加、外国人家庭の子どもたちを支える取り組みに関しては、本学としては特に行っていない状況です。本学の留学生がIT系スキルを持っているということを考えて、何か可能性があれば対応できる

のではないかと考えています。

留学生の就職等に関しまして、本学では、千葉市内に拠点を置き、留学生を積極的に採用してくれる企業の説明会を行っています。留学生を積極的に雇用している企業は基本的には東京の企業が多いですが、千葉市内でも数社あります。その企業に向けて、留学生の就職の斡旋を行っています。千葉市内の企業等への外国人材の獲得について、今後何か機会がありましたらサポートや支援等を行うことができるのではないかと考えています。

#### 放送大学

本学は、放送とオンラインで授業を提供しており、学生は社会人やシニアの方がメインであることが特徴です。

また、履修証明プログラムとして、①ボランティアの方がボランティア活動等で、異なる文化の人々と交流ができるようになるコミュニケーション力を養成する「異文化コミュニケーションプラン」、②学校支援活動・地域活動の要となるコーディネーターを養成する「学校地域連携コーディネータープラン」を開設し、<sup>かたまり</sup>塊の学びをしていただくことで多文化共生に関する専門性を身につけられるプログラムをご用意しており、千葉市民の皆様、特に社会人の方に学んでいただければありがたいと思っております。

それから、本学ではオンラインという特徴を生かし、特に放送授業に日本語字幕を付けております。本学は入学試験のない大学ですので、外国人の方ご本人が、大学レベルの学びをしたい場合に、本学の授業を視ていただくことで、大学レベルの学びにも触れていただけると考えております。こうした特徴を生かしながら、千葉市内にいる外国人や外国人の生徒の支援につなげていければと考えています。

#### 帝京平成大学

本学は学生総数1万人余りの大学で、そのうち毎年留学生の特別入試枠として75名を設けております。さらに、付属の日本語学校を近年設けまして、定数は100名ですが、大学進学に備える語学を学んでいくことでやっております。

学生による日本語教育支援活動では、学校のキャンパス内に会場を提供して、留学生が日本語学校に協力する。また留学生の地域活動では、お神輿を担ぐことや盆踊り、餅つきに参加するなど実施しております。

また、外国人家庭の子どもたちを支援する取り組みではないのですが、帰国子女の方々に対する日本語教育支援も付属の日本語学校で行っております。

最後に、就職の件ですが、現在はまだ、本学卒業の留学生が就職した実績のある企業に限りましてインターンシップをやっております。

市長にぜひお願いしたいのですが、今後は、千葉市内の企業と連携する機会を設けていただきたいと思います。本学の学生が多数千葉市内に居住しており、また本学と千葉市は近隣でもございますので、千葉市と緊密に連携していきながら、今後、そのまま離散することではなく、学位を取得後の学生の定住・就職につなげていきたいと思っております。

#### 千葉工業大学

本学は留学生が約80名います。地域のボランティア活動をしておりますが、ご承知の通り本学のキャンパスは千葉市外でございますので、千葉市ということではいいまずと活動はできておりません。ただ、直接千葉市ではないのですが、外郭団体である千葉市産業振興財団と本学とは企業支援に関しては、毎年積極的にやらせていただいておりますので、企業と留学生とのマッチングなどといったお手伝いは今後ご用命が

あればできるのではないかと思います。あと、直接的ではありませんが、昨年からモビリティマネジメントに参入しており、その関係で生活情報の多言語化をお手伝いできるのではないかと思います。

最後に、言うか言わないか、最初に見た時から悩んでいたのですが、外国人向けのごみ収集のチラシはごみ分別についてとてもよくまとめられていて、すごいと思いますが、私はインフォグラフィックの専門をしまして、見せ方について多少アドバイスできるとか思います。もし何かご用命がありましたらぜひご相談いただければと思います。

千葉大学

神谷市長の発表は本当に大変重要、そしてかつ深刻な問題だと思いました。大学では、英語をもっとできるようにすればいいのではないかとこの発想がありますが、この問題は英語がそもそもわからない方たちをどのように受け入れて、日本の文化に馴染んでいただき、彼らが阻害されないようにしながら社会を作っていくか、日本が日本でなくなってしまう危険性が出てくる非常に重要な課題だと思います。

2点ご質問がございまして、資料にあるグラフに記載されている「技人国際」は、特定技能や技能実習とは異なる別の区分でしょうか。

市長

これは在留制度の中の在留資格の区分でありまして、自然科学、人文科学の分野で業務をする方に対して、例えば通訳、デザイナー、語学講師、機械工学の技術者等の在留者の区分で生かせる比較的知見をお持ちの方が取得される在留資格です。

千葉大学

あとは、過去10年で1.7倍になったということですが、これから10年も同じペースなのか、もう少し増えることが予想されるのか、何か想定されていることありますか。

市長

振れ幅については諸説ございまして、そもそも外国人の方が日本を働く先として選んでいただけるかという国際競争力の問題がありますが、数としては増えていくと思います。このコロナの期間中も、外国人住民が増えておりますので、特に首都圏、千葉市も含まれますが、今後、地域社会における外国人の数や割合が増えていくことが想定されます。

千葉大学

最後、財源に限られた中でどのように支援していくか。ボランティアの話もありましたが、やっぱり今は生産労働人口の人たちは共働きになっていますが、リタイアした方たちに活躍していただくとか、あるいは学生についてはボランティアをすることが将来の就職に有利になるとか、そういう企業側のスタンスの変化などというのは、ある意味金銭的なものとは違うインセンティブになるのではと感じました。今後ともよろしく願いいたします。

市長

ご意見ありがとうございます。まず、外国人の数が増えていく前提での施策を国は決めています。千葉市としましては、国へまずはしっかり責任を果たしてくれということは散々言っております。法務省の施策には色々な分野がありますが、再犯防止や保護司など、なんでも地域でお願いしますということになっておりまして、それは地域でやらなくてはいけないことなのでやりますが、在留制度は国の制度であり、国があとはよろしくと自治体にまかせっきりでなくて、しっかり共に取り組むことが重要ではないかとずっと指定都市市長会で言い続けておりますし、今後も言い続けていきたいと思っています。

その前提の中で、やはりだいぶ局面が変わってきていますので、例えば支える側と

しても、支える活動を継続できることが大事です。その一環として、本日お配りしている資料の中に、コミュニティ通訳・サポーター制度があり、日本語と外国語両方でできる方に入っただいていますが、これは謝金を払っています。市が関わる形でのボランティア制度の中で謝金を払うことはなかなかありませんでしたが、継続的に活動していただくためにはそれなりの仕組みが必要ではないかと思っております。今日も各大学から、続けられる仕組みや参加にあたって、なんでも手弁当ではなく、しっかりその感謝の気持ちを表す具体的なものが需要ではないかという話がありましたが、そういった仕組み作りはしっかりしていかなければならないと思っております。千葉市は非常に国際的な経験を積んだ方が住んでおります。おそらく両空港に近いので、国際業務に携わられている方が、居を構えて、定年後にもお住まいになられている方が多くいらっしゃるかと思います。そういった方々のお力もお借りできるような仕組みを、市もしっかり関わる形で大学の皆様のご協力も得ながら作っていく必要があるのではないかと考えております。局面の変化に合わせて、地域にある様々な経験、知識などを組み合わせて取り組みを進めていければと思います。

ご意見ありがとうございました。

## 5 閉会

事務局から連絡